

山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

6月号

Yamaga Medical Center



発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420

骨密度測定装置の紹介と骨粗鬆症について

我が国は2007年に高齢化率が21%を超え、その後も右肩上がりが高齢化が加速しています。2014年に総務省が発表した文書によれば、2025年には30.3%、2060年は39.9%に達すると試算されており、これに伴い骨粗鬆症患者数も増加傾向で、骨粗鬆症をベースとした骨折（椎体骨折、大腿骨近位部骨折等）も増加傾向です。椎体骨折や大腿骨近位部骨折は運動機能の低下を来し、健康寿命の阻害要因となります。

この連鎖を断つため、骨粗鬆症の早期診断・早期治療介入が有用です。診断の手順としては、下記の通りです。(骨粗鬆症ガイドライン2015年版より抜粋)

骨粗鬆症の診断に至った場合は、治療を開始します。治療薬は病態に応じて選択することとなりますが、原発性骨粗鬆症に対する治療薬の代表的なものとしてビスホスホネート薬、副甲状腺ホルモン薬、抗RANKLE抗体薬が挙げられます。ガイドラインではビスホスホネート薬：アレンドロン酸、リセドロン酸、抗RANKLE抗体薬(デノスマブ)が骨密度上昇効果、骨折発生抑制効果(椎体骨折、非椎体骨折、大腿骨近位部骨折)のすべてで評価Aとなっており、そのほか、ビスホスホネート薬との併用薬として活性型ビタミンD<sub>3</sub>製剤も推奨されています。詳しくは骨粗鬆症ガイドライン2015年版をご参照ください。

当センターでは本年3月に骨密度測定装置を更新し、新たにGE Healthcare社製 PRODIGY Fugaを導入致しました。ポジショニングガイド、One Scan機能、一括解析により、検査時間の短縮・正確な評価が可能となりました。患者様への負担軽減、骨粗鬆症の診断および治療の効果判定に非常に有用と考えております。かかりつけの患者さままで、骨粗鬆症が疑われる方の診断や既に治療開始されている患者さまのフォローにご活用ください。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：整形外科医長 横田 秀峰)

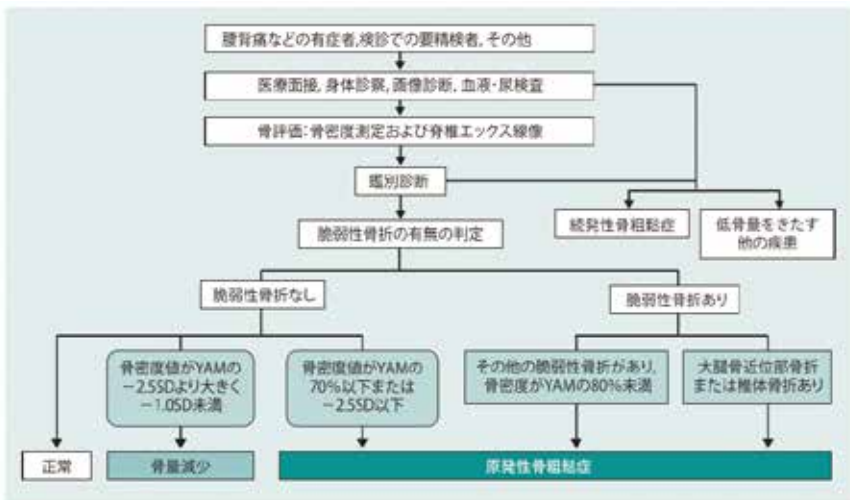


図 11 原発性骨粗鬆症の診断手順

基本理念

いのち

地域住民の生命と健康への貢献

基本方針

山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
⑤ 健全経営に努めます

CONTENTS

- 骨密度測定装置の紹介と骨粗鬆症について ..... P 1
部門紹介 (臨床工学科) ..... P 2
医療最前線 ..... P 3
外来担当医表 (6月) ..... P 4

## 臨床工学科のご紹介

臨床工学技士は、医師の指示のもと、生命維持管理装置などの医療機器を保守点検・操作することを業務としています。当センターでは、臨床工学技士2名体制で、輸液ポンプ、シリンジポンプ、低圧持続吸引器などの医療機器の日常、定期点検を行い、各病棟への貸出、返却等の中央管理をしています。



臨床業務としては、生命維持管理装置である人工呼吸器や血液浄化装置の使用前後、および使用中の点検や、器材の準備、セッティング、患者への装着、装置の操作などを行っています。



BENNETT 840



V60



CHDF



DEPP



CART

人工呼吸器

血液浄化装置

また、手術室に臨床工学技士が常勤し医療機器の点検や、内視鏡手術装置、超音波診断装置、ラジオ波凝固装置などの操作や整形外科手術の助手もを行っています。



手術室



シネアンギオ室

その他にも、シネアンギオ室で治療する肝臓動脈化学塞栓術の助手を行い、各診療科の医師、看護師、コメディカルスタッフ、事務職員の方々と協力し、よりよい医療を提供できるように日々の業務に取り組んでいます。

(文責：副臨床工学技士長 西口 博憲)



## 医療最前線 (122)



## 癌は生活習慣病である “糖尿病は癌のリスクファクター”

内分泌・代謝内科  
川崎 修二 医師

日本人の死因は、1980年代から現在に至るまで悪性新生物がトップであり、癌の予防や早期発見・治療は非常に重要ですが、癌も生活習慣病のひとつであると一般人に広く認知していただく必要があります。ある研究 (Inoue, M. et al.: Ann Oncol, 2012; 23(5): 1362-9) では、日本人の癌の原因として「生活習慣または感染」が大きな割合を占めると報告されています (男性: 53.3%、女性27.8%)。癌の危険性を減らす5つの健康習慣として、①禁煙、②節酒、③食生活の見直し、④身体を動かす、⑤適正体重の維持が大切と言われています (国立がん研究センター がん情報サービスHP「科学的根拠に基づくがん予防」)。喫煙は肺癌のみならず、胃癌や肝臓癌、膵臓癌、子宮頸癌といった癌をも増やします。過度の飲酒は肝臓癌、大腸癌、食道癌などを増加させ、適正な飲酒量は1日アルコール23g以下 (ビール633ml、日本酒180ml、焼酎120ml、ワイン200ml、ウイスキー80ml) とされています。食生活では、塩分過多は胃癌を増やし、加工肉の摂取は大腸癌の増加、熱い飲食物は食道癌の増加を促します。単一の食品や成分の摂取で癌を完全に予防できるわけではなく、むしろ摂取過多による癌の増加リスクを分散させるためには、過不足なくバランスの良い食習慣が大切です。また、適正な運動量や体重維持は、癌リスクを減少させることが証明されています。

日本人糖尿病患者の死因は、1990年代からは動脈硬化性疾患を抜いて悪性新生物がトップです。これは、糖尿病や動脈硬化性疾患の予防や治療が

発達したことも大きいと考えますが、糖尿病患者では癌リスクが有意に高いことが分かっています。また、肝臓癌の原因としてウイルス性肝炎が重要視されてきましたが、肝炎ウイルスを原因としない脂肪肝炎を基礎とした肝臓癌が増えていることは認知されてきていることと思います。

もはや、癌は生活習慣病と言って良い時代です。残念ながら、糖尿病のコントロールを良くすることで癌リスクが減少するというような証拠はまだありませんが、動脈硬化性疾患を減少させる証拠は長年蓄積されてきていますし、血糖管理は癌も含めて死亡リスクを減らすという考えに反対する医師はほとんどいないと思います。当科では14日間の糖尿病教育入院のクリニカルパスを運用しています。また、急激な血糖コントロール悪化は膵臓癌などの悪性疾患の発生を疑う必要もあります。ぜひとも、生活習慣の是正や糖尿病治療を癌予防として位置づけるよう患者さまにご指導いただき、その一助に当院をご利用いただけたらと思います。

### 糖尿病で増える癌

	相対リスク (95%CI)
胃癌	1.06 (0.91~1.22)
大腸癌	1.40 (1.19~1.64)*
肝臓癌	1.97 (1.65~2.36)*
膵臓癌	1.85 (1.46~2.34)*
乳癌	1.03 (0.69~1.56)
子宮内膜癌	1.84 (0.90~3.76)
前立腺癌	0.96 (0.64~1.43)
膀胱癌	1.28 (0.89~1.86)

(糖尿病とがんに関する合同委員会報告より引用。\* 有意な上昇)

## 外来担当医表

6月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※御任 玲美	※猪山 慎治	※後藤 英介	—	※後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	宮本 英明
消化器内科	池邊 賢一 (本原 利彦)	富口 純	本原 利彦	池邊 賢一 (富口 純)	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	清水 博 大庭 圭介	※海北 幸一 清水 博/大庭圭介	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	高木 茂 横田 秀峰 浦上勝/石松憲明	工藤 智志 浦上 勝 石松 憲明	手術 (担当医)	高木 茂 工藤 智志 横田 秀峰	手術 (担当医)
外科	別府 透 佐藤 伸隆	手術 (担当医)	別府 透 赤星 慎一	手術 (担当医)	別府 透 山村 謙介
乳腺外科	—	※末田 愛子	—	—	—
泌尿器科	—	※穴見 俊樹	—	※非常勤医師	—
小児科	※石井 真美	—	※石井 真美 予防接種(午後)	※石井 真美	—
セ ン タ ー   器	耳鼻咽喉科	—	※深見 直美	—	※非常勤医師
	眼科	正林 耕平	正林 耕平	正林 耕平	正林 耕平
産婦人科	福島 泰斗	福島 泰斗	福島 泰斗	福島 泰斗	福島 泰斗
	※片渕美和子(午後) 6/2(火)、9(火)、11(木)、16(火)、25(木)、30(火)				
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	外科医(午前) 整形外科医(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介	吉岡 明子	外科医(午前) 担当医(午後)
健診	豊永 政和 富口 純	豊永 政和 池邊 賢一	豊永 政和 富口 純	豊永 政和 富口 純	豊永 政和 池邊 賢一

◎診療時間は、8:30開始で11:00受付終了となります。予約変更の電話は、午後2時から5時までにお願いします。

◎小児科診療時間は9:00から16:30(受付は16:00)迄となります。予防接種は水曜日の午後に完全予約制となります。

※は、熊本大学病院等からの非常勤医師です。

## 特殊・専門外来

6月

名称	担当医等	実施日	診察場所
緩和ケア外来(予約制)	佐藤 伸隆	毎週 月曜・水曜(11:00~12:00)	Bブロック
禁煙外来(予約制)	坂田 和子	毎週 月曜(午後)	Aブロック
睡眠時無呼吸外来	坂田 和子	毎週 火曜・木曜(午後)	
小児科予防接種	※石井 真美	毎週 水曜(受付時間13:30~15:30)	Bブロック
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜(午後)	
女性外来(婦人科、思春期、更年期)	※片渕美和子	6/2(火)、9(火)、11(木)、16(火)、25(木)、30(火)	
PEG外来	担当医	隔週 第2・4水曜(午後)	5階病棟
両親学級(予約制:産婦人科)	助産師	第2・第4木曜日(13:30~15:30) ※産婦人科へお尋ねください。	
セカンドオピニオン外来(予約)	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎特殊・専門外来については、各診療科にお尋ねください。

◎急患の場合は、この限りではありません。

ご注意：学会等の都合で変更になる場合があります。

◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター

〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地  
TEL(代表)0968-44-2185 FAX 0968-44-2420  
<http://yamaga-medical-center.jp>